

英国の性犯罪者処遇プログラムにおける本件犯罪の扱いについて

1 概要

全9課程により構成されるプログラムの第2課程において(別紙参照)、自らの再犯リスクの高まりを表す要因を対象者に同定させるため、人生における良い出来事と悪い出来事を振り返るワークが実施され、ここでは、本件犯罪を含む、過去の犯罪も扱われることになっている。ただし、犯罪内容について語ることは必ずしも求められず、自分の犯罪の背景にある考え・行動傾向・感情のパターンについて分析することに主眼が置かれる。分析に当たっては、「Life Map」というツールが使用される。

具体的には、以下のとおり。

2 Life Map の作成 (第2課程・計4セッション)

まず、Old Me (犯罪や良くない状況につながる考えや行動。個人のリスク要因。)と New Me (犯罪を遠ざける考えや行動。個人の保護的要因。)という概念について具体例に触れながら理解させる。

次に、対象者それぞれの Life Map を作成する。Life Map は現在に至るまでの人生の上がり下がりグラフにしたものであり、白紙の中央を横切る線を引き、良い時はグラフが中央線より上に来て、悪い時は中央線より下に来る形で、人生を一本の線で表す。Life Map には、犯罪歴や、重要な性的経験が書き込まれることになっている。グラフの方向が変化する地点は、目立った人生の出来事や人生の転機があった瞬間であり、対象者は、ここで何が起きたか説明する。このとき、対象者は、ある経験の内容を詳細に語ることも、その経験が Old Me 又は New Me の形成にどのように影響したか語ることを求められる。

その後、人間関係やライフスタイル、性的体験、問題解決、感情の扱い、ポルノの使用に着目して Life Map を発展させる。これにより、経験から犯罪へのつながりを説明できるパターンを特定する。

完成した Life Map は、対象者自身によりグループ内で発表される。発表は、「これまでの人生で、Old Me が強く表れて問題を起こしていたのはいつか」「New Me が表れて成功をもたらしたのはいつか」といった観点からなされる。

3 Life Map の活用 (第3課程以降)

Life Map は、第3課程において復習された後、思考、感情、行動等を扱う各課程において参照される。特に性に関する考えや行動、人間関係、コーピング等について考えるときに、Life Map を参照するよう求められる。例えば、感情コントロールについて扱う第6課程では、Life Map から、これまでの人生で特徴的な感情を挙げ、その感情が起きる引き金を特定するとともに、可能な限り、犯罪をした時の感情や、その引き金となった出来事についても考えさせる。

別紙 Horizon の構成

課程	時間数
個別セッション	1.5～2
第1課程： グループへの参加(プログラムの説明など)	2
第2課程： 前へ進む(自らのリスク要因と保護的要因の理解, コーピングスキルの紹介)	8
個別セッション	1.5～2
第3課程： 新しい私の目標	2
第4課程： 成功を支える(セルフコントロール, 肯定的なアイデンティティ)	4
第5課程： 新しい私とセックス(セックスに関する健全な考えや行動)	12
第6課程： 感情をコントロールする(感情が行動に及ぼす影響)	10
第7課程： 問題を解決する(問題解決訓練)	8
第8課程： 良い人間関係(自らの人間関係の振り返り, 他者への共感, アサーティブネス)	10
第9課程： 出発する(今後のライフスタイル)	6
個別セッション	2